

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の生徒(第3学年)の学習・生活状況の概要についてお知らせいたします。

- 実施日時：令和6年4月18日(木)
- 参加者数：中学校4校 生徒数 3年生 334名

1 学習の状況について

	国語	数学
(1) 全体の結果(評価)	中学校3年 全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等

・教科に関する調査の平均正答率は、国語、数学ともに全国平均・県平均と比べて、±5%の範囲内にあり、ほぼ同等です。(文部科学省では、±5%の範囲内であれば、差はないものと判断できると示しています。)

(2) 各教科の状況について ○=平均正答率が高い問題 ●=平均正答率が低い問題

出題の趣旨	
国語	○行書の特徴を理解している。 ●意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ●文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する。 ●目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる。 ●文の成分の順序や照応について理解している。 ●短歌の内容について、描写を基に捉える。
数学	○問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。 ○二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈する。 ●連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す。 ●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する。 ●複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。 ●筋道を立てて考え、証明する。 ●事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだす。

(3) 学習状況の考察

①全体の状況

- ・全体的に無回答率の割合が、全国・県に比べて低く、また記述式の問題に対しても、全国・県と比較すると無回答率が低く、問題に対して根気強く取り組む姿勢が伺えます。
- ・評価の観点については、国語、数学の「知識・技能」「思考・判断・表現」において、全国・県とほぼ同等と言えます。
- ・問題形式については、国語は「記述式」が全国・県平均を上回っています。数学は、いずれの形式も全国・県とほぼ同等と言えます。

②各教科の状況

【国語】

- ・「文の成分の順序や照応について理解している」では、正答率が低くなっています。
- ・「意見と根拠など情報と情報との関係について理解している」では、正答率が低くなっています。
- ・我が国の言語文化に関する事項の「行書の特徴を理解している」では、正答率が高くなっています。
- ・「話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる」では、正答率が低くなっています。
- ・「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する」では、正答率が低くなっています。

- ・「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する」「目的に応じて必要な情報に着目して、要約する」では、正答率が低くなっています。

【数学】

- ・「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる」では、正答率が高く、「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表す」では、正答率が低くなっています。
- ・「「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出す」では、正答率が低くなっています。
- ・「二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈する」設問では、正答率が高くなっています。
- ・「筋道を立てて考え、証明する」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」など、自分の考えを記述式で回答する設問の正答率が低くなっています。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果について（生徒質問紙による意識調査から）

【○望ましい項目 ●課題とみられる項目】

- 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」等の項目において、肯定的な回答が全国平均を上回り、基本的な生活習慣、家庭での良好な環境が備わっていると考えられます。
- 「自分には良いところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」等の項目で全国平均を上回り、自己有用感が高いと言えます。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人が困っているときは、進んで助けている」等の項目において、高い回答率であり、規範意識が育っているとされます。
- 「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」の項目について、全国・県平均よりも回答率が高く、9割以上の生徒が肯定的な回答をしており、子どもたちが良好な友達関係の中で、安心して学びに向かう環境が整っているとされます。
- 友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力し、自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたり、開かれた人間関係を基に互いの関わりを通して、共に成長していこうとする姿勢が伺えます。
- 普段の日に併せて土日においても、家庭学習の時間が短い生徒が多い状況にあります。
- 新聞を読まない生徒が多い状況です。
- 放課後や週末の過ごし方について、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている生徒が全国的にも多いが、本市においても同様の傾向が見られます。

3 今後の取り組みについて（学力向上に向けて、本市において次の取組を推進します。）

■基礎学力の定着に向けて

- ・朝学習や補習の時間、家庭学習等を利用して反復練習を継続的に行い、基礎・基本の定着を図ります。
- ・一人1台端末を活用し、ドリルパークやeライブラリなどのデジタルドリルを積極的に活用し、個別最適な学びを進めていきます。

■主体的・対話的で深い学びに向けて

- ・各教科等で身に付けた知識及び技能を活用し、様々な課題の解決に活用できるような機会を設け、児童生徒主体の授業を進めていきます。
- ・授業において一人1台タブレット等のICT機器を積極的に活用し、交流活動を行います。

■生活習慣や学習環境等の向上に関して

- ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、ICT機器を効果的に活用していきます。
- ・富士山学習における「地域を知る学習」と「交流活動」において、地域人材を積極的に教育活動に活用しながら充実を図り、自分の住む地域に関する興味・関心を高めます。
- ・読書活動を推進します。
- ・基本的な生活習慣、家庭学習習慣の定着に向けて、家庭との連携を図ります。
- ・コミュニティスクールとして、地域と学校が児童生徒の課題を共有し解決に向け協力していきます。

自己肯定感や規範意識が高く、夢や希望をもって生き生きと学校生活を送っている子どもたちです。今後も、子どもたち一人一人が目標に向かって輝くことができるよう、家庭と学校、地域で連携を深めていきたいと思っております。

問 い 合 わ せ 先
 富士吉田市教育委員会 富士吉田市立教育研修所
 TEL 0555(22)1111(内線515) 直通 0555(23)1766